

精神障害者分会報告書骨子(案)について

— 全国衛生部長会の意見 —

精神障害分会 報告書 骨子 (案)

総論

1. はじめに
2. 基本的考え方

各論

1. 精神障害者の地域生活の支援

① 在宅福祉サービスの充実

〈現状〉

〈方向性〉

- ・精神障害者ができる限り地域で生活できるよう、居宅生活支援事業の普及を図るとともに、ケアマネジメント手法の活用を推進し、地域ケア体制の整備を図る。
- ・特に、今後10年間で、「条件を整えば退院可能」な約7万人の退院・社会復帰を目指すために必要なサービスを整備。

〈具体的な対応〉

- ・居宅生活支援事業の実施を円滑に進めるためには、介護保険報酬との単価差の解消が不可欠。
- ・地域生活援助事業の充実
補助の考え方について、知的障害者グループホームの重度加算が制度化されていないため、補助年額において格差が生じている。
いわゆる社会的入院者の受け皿として、今後一層、グループホームの充実が求められるが、知的障害と同様、重度加算の制度化が必要。

〈追加〉

- ・精神障害者保健福祉手帳による優遇措置の充実を図ること。

④ 精神科救急システムの確立

〈現状〉

〈方向性〉

〈具体的な対応〉

〈追加〉

- ・都市のみでなく、地域における医療施設、医療従事者、財政状況等の現状を十分に踏まえたうえで地域においても当面実現可能なシステムの検討についても記載した内容。

⑤ 相談体制の確保

〈現状〉

〈方向性〉

〈具体的な対応〉

- ・保健所における相談体制の強化。
具体性をもった提示がなければ実効性に乏しい。

2. 社会復帰施設の充実

〈現状〉

〈方向性〉

〈具体的な対応〉

- ・地域生活支援センターについては、整備目標を引き上げるとともに、検討会等の場であり方をさらに検討するとともに、相談機能を充実させるため、サテライト方式の導入も併せて検討。
- ・医療法人が自ら、または別法人を設置して精神障害者社会復帰施設を設置する場合の整備費補助について、入所施設の整備を伴う場合には病床削減と関連付けることを検討。

5. 心の健康対策の充実

② 自殺予防と「うつ」対策

〈現状〉

〈方向性〉

〈具体的な対応〉

- ・職域や地域における心の健康づくり体制の整備、相談体制の充実及び自殺予防マニュアルの普及等の推進。

(追加)

- ・薬物乱用による精神障害者に対する医療体制の充実

⑤ 思春期の心の健康

〈現状〉

〈方向性〉

〈具体的な対応〉

- ・「社会的ひきこもり」対策については、地域においてひきこもり者の増加が著しいこと、現実には本人及び家族が長期間にわたり非常に苦しんでいること、ひきこもり者は診察、相談の場に本人が来ることが少ないこと等の特性を踏まえ、具体的対応についてもう一步踏み込んだ検討と対策が必要。